地域教育情報紙
（令和８年度）
第 ４ 号

風だより

令和８年 11 月 16 日発行
富士・東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
（石原・梶原・雨宮）

『風だより』は、富士･東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士･東部教育事務所が発行する情報紙です。１年に６回の発行を予定しています。

第２９回　山梨県南都留地域教育フォーラム

「子どもたちの教育は地域全体で担う」～みんなで育む地域連携・地域交流～

○日　時　11 月６日（金）13:30 ～ 16:30
○場　所　富士吉田市民会館（ふじさんホールおよび小ホール）
○主催者　南都留地域教育推進連絡協議会（南都留地推協）
○参加者　南都留地域の学校や各団体の関係者など 304 名

1. 全体会 13:30～14:00

南都留地推協会長 渡邊 正人 氏 挨拶、富士吉田市長 堀内 茂 氏および都留文科大学 学長 加藤 敦子 氏 祝辞、南都留市町村教委連合会 会長 赤池和文 氏 基調提案



来賓の堀内市長、加藤学長、渡邊教育長

2. 第1大分科会 14:10～16:25 @ふじさんホール

（１）テーマ　**『誰一人取り残されない教育』**
～子どもの居場所を充実させる取組～

（２）コーディネーター　ひばりが丘高等学校
校長 小林 久美 氏


渡邊会長の主催者挨拶


赤池教育長による基調提案

（３）実践提案

①**「地域とともに育む放課後子ども教室～都留市の実践とこれから～」**
都留市生涯学習課副主査　加々美 貴之　氏
都留市健康子育て課主査　後藤 孝　氏

②**「探究活動と子ども食堂の取り組みについて」**
ひばりが丘高等学校　教諭　広瀬 昂　氏
ひばりが丘高等学校　うどん部生徒３名


指導助言者の佐藤氏 と コーディネーターの小林氏

（４）パネルディスカッション

上記提案者の他、都留市放課後子供教室コーディネーター　佐藤 都子 氏、NPO 法人にじいろのスイミー事務局長　三枝 里実 氏、指導助言者として都留文科大学講師　佐藤 みのり 氏をお迎えして、子どもの居場所や、居場所づくりを持続可能な活動にしていくためのディスカッションを行いました。「保護的補償的体験が子どもたちには必要だが、学校以外の場所でもよい」という助言を佐藤氏からいただきました。



発表者の方々

3. 第2大分科会　14:10～16:25　@小ホール

（1）テーマ　**『地域連携のこれからを考える』**
～防災でつながる地域の輪～

（2）コーディネーター　吉田小学校校長 佐藤 尚武 氏

（3）実践提案

①「河口湖南中学校区 保小中合同引き渡し訓練」
南都留郡保育協議会
船津保育所　所長　窪田 栄子 氏
小立保育所　所長　高野 由紀子 氏

②「私たちの町と学校の総合防災訓練」
西桂町立西桂中学校　校長　渡邉 徳彦 氏

（4）パネルディスカッション

上記提案者の他、指導助言者として都留文科大学准教授　田開（たびらき）　寛太郎 氏をお迎えして、防災を通じての地域連携の深め方と、その取組をいかに持続可能なものにしていくかについて討論を行いました。田開氏から「持続可能にするには『楽しむ』という要素があることも大切」という助言をいただきました。

多くの方から質問や意見が出され、新しい気づきに繋がりました。子どもの居場所づくりや地域防災の活動を通して、学校・行政・地域の連携の重要性を改めて考える、非常に良い機会となりました。



指導助言者の田開氏 と コーディネーターの佐藤氏



発表者の方々


会場は多くの参加者の熱気に包まれました、

剣道教室で技と心を学ぶ

明日の風　第21回 伊藤知治教士八段剣道教室

○日　時　9月27日（日）9:30 ～ 12:10
○主　催　北都留地域教育推進連絡協議会「明日の風」
大月市剣道連盟、上野原市剣道連盟
○参加者　北都留地区の幼小中高生24名､指導者15名
○講　師　警視庁名誉師範　剣道教士八段　居合道八段
伊藤 知治（ともはる）氏

郷土出身の伊藤先生を講師に迎えた剣道教室が開催され、園児から高校生まで多くの子どもたちが参加しました。この教室は、剣道の技術向上はもちろん、稽古を通して自分自身の生き方について考える機会を持ってもらうことを目的として行われています。

教室では、礼法や構え、素振り、足さばきなど剣道の基本を､一人ひとりが理解できるよう丁寧に指導していただきました。また、個別に声をかけながら､それぞれの特性や課題に応じた実践的な指導も行われました｡伊藤先生は技術面だけでなく心の鍛錬の大切さも説き、**「剣道は正しく、楽しく」「剣道を通じて強い心を作り､弱い自分に打ち勝つ」「素**



伊藤先生を囲んでの記念撮影


講師の伊藤知治教士八段


指導者の方々


構え方から丁寧な指導


真剣に取り組む参加者たち

直になることが上達の秘訣」と繰り返し子どもたちに語りかけました。先生は国内外で活躍されており、海外でも剣道が精神修養や人との間合いを学ぶ武道として高く評価されていることを紹介。「正しく、素直に」という言葉には、剣道を通じて人として成長してほしいという先生の熱い思いが込められていました。



かかり稽古の個別指導も！



熱意あふれる指導

参加者からは、「見学だけのつもりだったが楽しく体験できた」「まっすぐきれいに打てるよう頑張りたい」「心構えの大切さを改めて感じた」「自分の癖を見つけることができた」「普段の練習で雑になっていることがあることに気づいた」などの感想が寄せられました。子どもたちは技術だけでなく、剣道と向き合う姿勢や感謝の心についても学び、今後の成長につながる貴重な機会となりました。



初心者も頑張りました

明日の風　アスリート実技講習会

今後の予定 11月14日（土）【記録会】
2月6日（土）・3月6日（土）
参加をお待ちしています

○日　時　10月10日（土）9:00 ～ 12:00
○場　所　大月市営総合グラウンド
○参加者　北都留地区の小中学生30名
○種　目　100m走　60mハードル　走り幅跳び　走り高跳び　ジャベリックボール投げ　のうち2種目



身体を使ったじゃんけんで準備運動



ハードルの練習

久しぶりの晴天に恵まれ、心地よい気候の中で陸上競技講習会が開催されました。参加者はゲーム形式の楽しい準備体操や体の動かし方を学んだ後、各自が選んだ2種目の講習に取り組みました。指導者から基本動作を丁寧に教わり、その後は練習や記録測定を実施。最後には参加者全員による交流リレーが行われ、学年や学校を越えて交流を深めながら大いに盛り上がりました。



走り高跳び



走り幅跳びの動きの練習

参加した児童からは、「ボール投げが楽しかった」「他の学校の人たちとの交流が楽しかった」「自己新記録が出てうれしかった。次も頑張りたい」といった声が聞かれました。また、指導者は「友達や過去の自分と競いながら努力することで陸上以外にも生かせる力が身に付きます。これからも頑張ってほしい」とエールを送りました。



ジャベリックボール投げ



白熱した 全員リレー

参加者にとって、記録への挑戦と交流の楽しさを実感できる有意義な一日となりました。

「いかのおすし」で命を守る力を学ぶ

心と体ヘルスアップ教室 ～健康安全郷育（きょういく）～



〇日　時　10 月 27 日（火）10:00～11:30
〇場　所　丹波小学校
〇参加者　丹波小学校児童、丹波山村保育所園児　合計 22 名
〇講　師　渡辺　光美 先生（リズムオブラブ主宰、健康安全郷育アドバイザー、防災士、やまなし大使）
　上野原警察署生活安全課



講師の渡辺光美〔みつみ〕先生



「呼ばれたら助けに来ます！」



丹田に力を入れて「助けてー！」



先生方がオニになった鬼ごっこ





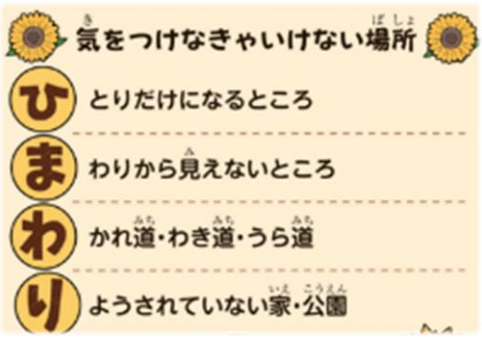
会場の全員で「いかのおすし体操」を踊りました

地域教育「明日の風」では、リズムオブラブ主宰の渡辺光美先生を講師に迎え、かけがえのない命を守るための心と体づくりを楽しく学ぶ体験型プログラムを開催しました。

講座では、スマートフォンの正しい利用方法や、防犯の合言葉「いかのおすし」、危険を避けるためのキーワード「ひまわり」などについて学びました。渡辺先生は、**「子ども自身が身を守るためには『いかのおすし』の実践と、危険を避けるための『ひまわり』が大切。また、大人は子どもが困ったときに相談できる関係づくりを心掛けてほしい」**と話しました。その後は、非常時の身の守り方を楽しく身につける「いかのおすし体操」や「助けてこおりおに」、仲間と協力して取り組む「紙ふうせん競争」などを実施しました。遊びを通して、普段の生活でも災害や犯罪などの非常時でも役立つ「生き抜く力」を学び、子どもたちは元気いっぱいに体を動かしていました。また、大きな声で助けを求める練習も行い、防犯意識を高めました。

当日は上野原警察署生活安全課の方からも、「悪い人に会ったら、大きな声を出して助けを求めてほしい」と呼び掛けがありました。参加した子どもたちからは、「助けて鬼ごっこが楽しかった」「『ひまわり』を覚えて気をつけようと思った」「防犯意識が芽生えた」などの感想が聞かれ、楽しみながら自分を守るための大切な知識や技術を学ぶ機会となりました。





自分の将来・地元にワクワクする時間!! ふるさと発見ワークショップ

〇実施日　9月16日（水）17日（木）
〇場　所　富士見台中学校　ほか
〇主催者　富士吉田市立教育研修所
〇参加者　富士吉田市内の5中学校の3年生
〇17日の講師　〔　　〕は勤務先
　舟久保 円花 氏〔新倉幼稚園〕
　大谷 英恵 氏〔富士山GXホールディングス〕
　天野 さくら 氏〔市立病院〕
　分部 祥子 氏〔セルバ〕
　早川 圭 氏〔Honda Cars〕
　髙本 皓平 氏〔山梨中央銀行〕
　望月 美乃里 氏〔TOMI美容室〕
　伊藤 智美 氏〔市役所子育て支援課〕
　渡邊 一世 氏〔セキスイハイム〕
〇内　容





ワークショップの様子



「好き嫌いせず挑戦！」と舟久保さん



「専門職でないから地元の良さを自由に伝えられる」と大谷さん



「今を楽しんで！」と天野さん

進路決定前の中学3年生を対象に、**「社会的・職業的自立のためのキャリア教育」や「ふるさとのよさを再発見し、郷土愛を育むこと」**を目的としたワークショップが開催されました。この事業は富士吉田市立教育研修所が企画し、かえる舎などの協力により実施されました。富士吉田に関わりのある多種多様な職業で活躍する若者が講師を務め、中学時代に抱えていた悩みや夢中になっていたことが進路を考えるきっかけになったことや、それぞれの職業観や人生観について語っていただきました。生徒たちから「仕事で楽しいことは？」「大変なことややりがいを感じていることは？」などの質問があり、講師の話に真剣な表情で耳を傾けていました。

講師の皆さんの“富士吉田愛”が生徒たちに伝わり、中学生にとって自身の進路や生き方について深く考える機会となりました。



富士吉田への愛と情熱にあふれた分部さん



早川さん「資格を取るとできることが増えます」



髙本さん「仕事って自分で考えて決めることが多いんです」



「好きなことをたくさん見つけて」と望月さん



栄養士として働く伊藤さん



「山梨は人があたたかい」と渡邊さん

〇 私にとって仕事とは？

「『仕事＝(イコール)大変』ではない」
「誰かの役に立てるからこそ仕事」
「自分を輝かせる場」「正解がない」
「考えることやコミュニケーションが大切」

〇 生徒のみんなへのメッセージ

「今を大切に！」「自分の好きを見つけよう」「部活動の経験が今役に立っている」
「楽しさと笑顔を大切に忘れずに」「失敗を恐れずチャレンジして！」「ありがとうの気持ちを大切に」

ひばりが丘高等学校 心を込めて作った本棚を寄贈



寄贈式の様子



ひばりヶ丘高校の4年生たち

10月2日、認定こども園ウブントゥ富士の森で、山梨県立ひばりが丘高等学校の生徒による本棚の寄贈式が行われました。寄贈式には4年生4人が出席し、園児たちへ手作りの本棚を贈りました。

この本棚は、同校４年生 16 人が創作授業の中で制作したものです。同校では、木工制作を通じて地域に貢献する活動を長年続けており、完成したイスや本棚を近隣の老人ホームや保育施設などに寄贈しています。この取組は、井上工務店の井上貴文さんの協力のもと、20 年以上にわたり続けられています。

生徒たちは、「子どもたちに喜んで使ってもらえる本棚にしたい」と考えながら、デザインや使いやすさを工夫して制作しました。今年の寄贈先となったウブントゥ富士の森では、園児たちが年間 500～1,000 冊もの絵本に親しんでおり、新しい本棚が披露されると、子どもたちは本棚の周りに集まって興味深そうに眺め、うれしそうに高校生に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えていました。

また、生徒たちにとっても、自分たちの手で作ったものが地域の人々に喜ばれる様子を直接感じられる貴重な機会となりました。ものづくりを通じて地域に貢献するこの活動は、世代を超えた交流を生み出すとともに、高校生と地域を結ぶ大切な機会となっています。



本棚に興味津々…♡



本棚制作の様子

大切に使ってくださいね（^_^）

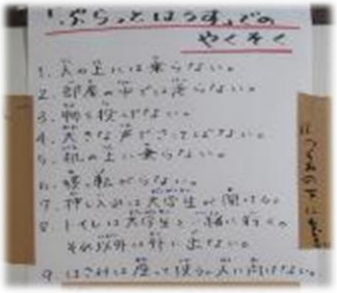
放課後の駅に集まる小さなコミュニティ
「ぷらっとはうす」



『ぷらっとはうす』がある谷村町駅の駅舎

〇日　時　毎週水・金曜日 15:30～17:30
〇場　所　富士急行線・谷村町駅
〇主　催　都留文科大学教養学部地域社会学科
　　教授　鈴木　健大　氏
〇協　力　早馬町自治会、富士山麓電気鉄道株式会社、都留市、生涯活躍のまち・つる推進協会





内部には子どもたちが作った飾りや“ やくそく ”などが掲示されています

富士急行線谷村町駅の駅舎で活動する「ぷらっとはうす」は、都留文科大学の学生が主体となって運営する地域交流研究センターまちづくり部門における地域プロジェクトです。都留文科大学教養学部地域社会学科の鈴木健大教授によるオープンゼミから生まれた取り組みで、**「子どもたちの居場所づくり」と「まちなかのにぎわい創出」を目指しています**。活動日は毎週水曜日・金曜日で、毎回６，７名の子どもが集まっています。大学生が宿



子どもたちと一緒に遊んだりおしゃべりしたり

題や勉強を見たり、一緒に遊んだり、悩み相談に応じたりしながら、子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供しています。

使用している駅舎の元宿直室は、富士急行から無償で借りており、備品類は学生や教職員、市役所などに投げかけて廃品を集め、玄関の下駄箱は都留興譲館の生徒が作ってくれました。エアコンはクラウドファンディングを実施して設置するなど、多くの方々の協力を得て運営することができています。


宿題をする様子を見守る大学生

「ぷらっとはうす」に関わる大学生たちは、毎週火曜日には朝活と称して全体ミーティングを行い、活動の振り返りや情報共有を実施。子どもたちとの関わりを通して、自分の強みや課題に気づき、コミュニケーション力や企画力を磨いています。子どもたちから学ぶことも多く、「どうすれば相手に伝わるか」「どのように寄り添えば安心してもらえるか」を日々考えながら活動しています。また、都留市ふるさと会館で七夕まつりやクリスマス会などを開催したり、つる子どもまつりや、夏休みの宿題支援、秋の運動会など、地域イベントにも積極的に参加したりしています。

子どもたち、大学生、地域住民が顔の見える関係を築くことで、交流の輪が広がっています。

山梨ことぶき勧学院 第40回 勧学院祭

10月20日（火）にYCC県民文化ホール小ホールで「第40回勧学院祭」が開催されました。今年は**『勧学院祭　一人ひとりが　輝いて』**をテーマに、それぞれの教室が日頃の学びの成果を発表しました。

北都留教室からは1・2年生16人が出演。教室の窓から望む大月市のシンボル・岩殿山を題材にした朗読劇『岩殿山をめぐる物語』と『岩殿城歌』を披露しました。さらに、教室に代々受け継がれてきたオリジナルの『北都留学園歌』の踊りも発表し、息の合った演技と踊りで観客を魅了しました。

南都留教室からは1・2年生26人が出演。盆踊りの定番『炭坑節』のほか、都留市民愛唱歌『今 生きてます』、さらに『吉田小唄』『高原列車は行く』を披露しました。中でも『高原列車は行く』では、会場全体がスクリーンに流れる歌詞を見て歌と手拍子で参加し、一体感に包まれた盛り上がりを見せました。

両教室とも 2 年生が中心となって準備や練習を重ね、本番では堂々とした発表を披露。発表後には、充実感に満ちた晴れやかな表情が見られました。また、他教室の発表を見て「あれいいね」「参考になるね」と語り合う姿もあり、学びへの意欲や新たな挑戦への意気込みが感じられました。勧学院祭は、学びの成果を発表する場であるとともに、仲間との絆を深め、教室を越えた交流を育む貴重な機会となりました。会場には終始温かな笑顔が広がり、心に残る一日となりました



開会行事　学院生全員で勧学院歌を歌います


心を込めて歌声を届けます


伝統の『北都留学園歌』


息を合わせて『炭坑節』の輪


盛り上がった『高原列車は行く』


北都留教室の皆さん


南都留教室の皆さん

東京大学名誉教授・教育/保育評論家　汐見稔幸先生と考える

子どもも、お年寄りも、元気になれる地域

～『それ、いいね！』『おもしろそう！』からはじまる、地域の未来～

〇日　時　10月12日（月･祝）12:00～13:00　子育てよろず相談ランチ会
13:30～15:30　「それいいね！」からはじまるおしゃべり会
〇場　所　小菅村中央公民館
〇主　催　一般社団法人おかえり（村まるごとようちえん　おかえり）
〇参加者　小菅村村長　舩木 直美　氏、村民の方々、移住者など　大人42人、子ども19人
〇講　師　東京大学名誉教授　汐見 稔幸　先生

小菅村では、過疎化対策の一環として移住者の受け入れや地域おこし協力隊の活用を進め、地域の活性化に取り組んでいます。今回、東京大学名誉教授で教育・保育評論家の汐見稔幸先生を迎え、村民や移住者、移住を検討している方々が参加するトークイベントが開催されました。



汐見先生からアドバイス



「おかえり」代表理事の尾崎氏

イベントの中で『これまでの人生でイキイキしていた、充実していた場面は？』をテーマにグループごとの対話が行われました。年齢や育った環境が異なる参加者同士でしたが、**「自分でやりたいことを考え、主体的に行動できた経験」が充実した時間につながっていたという共通点**が見えました。また、対話を通して「小菅村の良さとは何か」「本当の豊かさとは何か」といった、地域の未来を考える深い話題にも発展しました。



小菅について語る村長の舩木氏



グループごとテーマに沿って話し合い

汐見先生は、**移住を進めていくためには「仕事」「子どもが育つ環境」「支え合い」の三つが大切**であり、特に子どもが自由に遊び、自ら育つことのできる環境づくりの重要性について語りました。また、舩木村長は『源流』という村の大切な財産をこれからも守り続けていきたいと話しました。小菅村では、各地区で交流会が開かれるなど、村民と移住者がつながり、新しい人を温かく迎え入れる風土があります。主催者の尾崎さんも「正解はないので、これからも日常の中で交流が繰り広げられたらいい」と語りました。



たくさんの参加者の熱気に包まれました

さまざまな立場の人々が一堂に会し、お互いの思いや地域の未来について語り合った今回のイベントは、小菅村らしい温かなつながりを感じるひとときとなりました。

【　カラー版は、富士･東部教育事務所のHPからご覧いただけます。
URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html　】
地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先　富士・東部教育事務所 教育支援スタッフ　0554-45-7841